統合失調症と社会復帰

ハートクリニック
精神保健福祉士　伊藤大介

2014.7.6

本日の予定

1．統合失調症について

2．社会復帰について

3．統合失調症の方の社会復帰

4．一歩踏み出そうとしたら

5．まとめ

統合失調症について

発症時期

- 統合失調症の発症率は、世界的にみると約1％

- 発症のピーク
  ＊男性・・・15歳～24歳
  平均年齢は18歳
  ＊女性・・・25歳～34歳
  平均年齢は25歳

※小児期や青年期初期、年をとってからの発症は少ないと言われています

発症原因

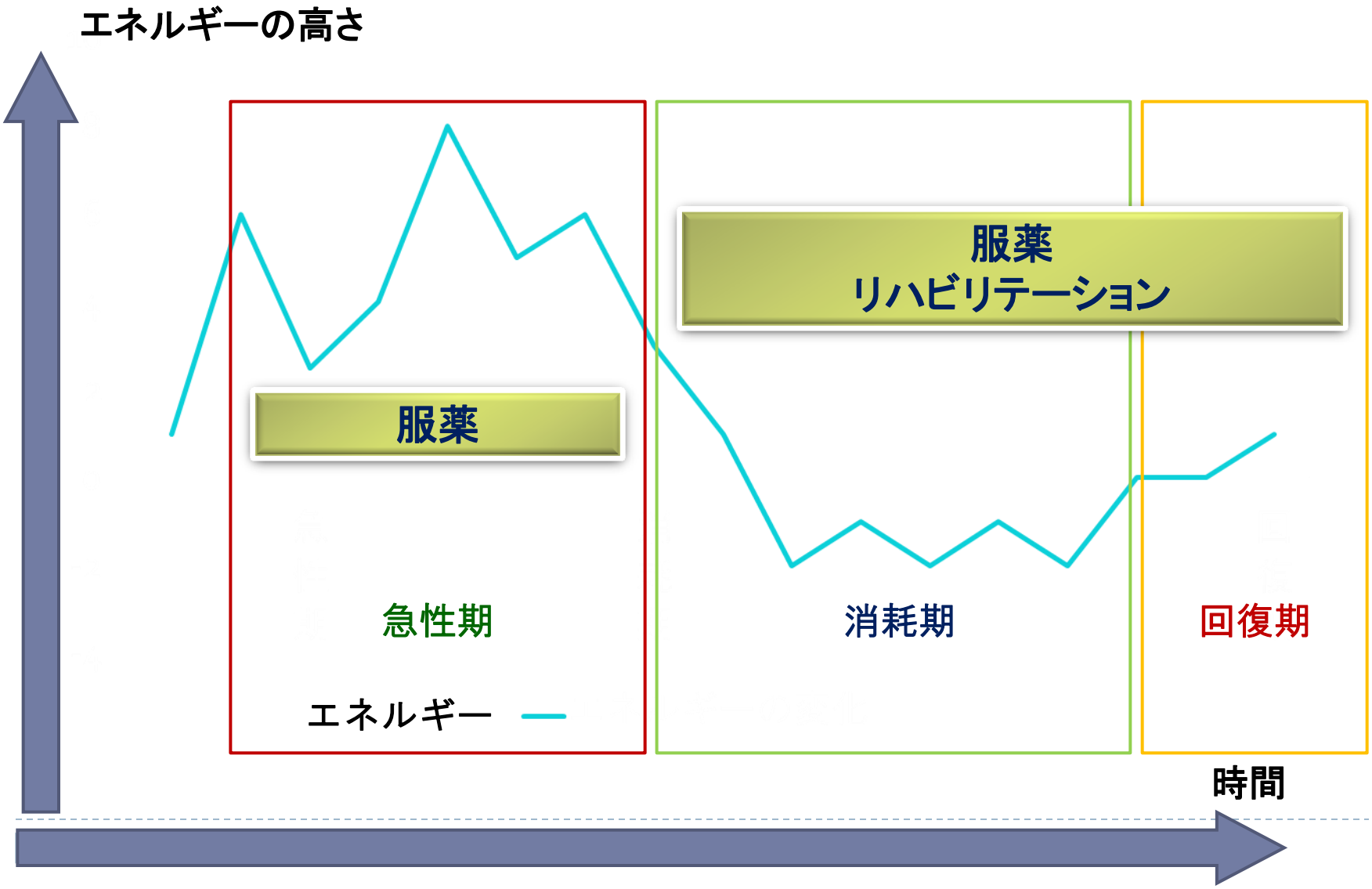
- ドーパミン過剰仮説
- ドーパミン以外の脳内物質の過剰・不足説
- 脳の形態の変化・それをおこしやすい体質
- ストレス脆弱性説

分かっていることは・・・ → 多因子的である

症状について

一口に統合失調症と言っても、人それぞれの症状がみられます

３つのステージ



３つのステージ　～急性期～

急性期症状（陽性症状）

陽性症状

【安心感や安全保障感を著しく損なう】

⇒幻覚や妄想(思考障害)

⇒洞察力の欠如

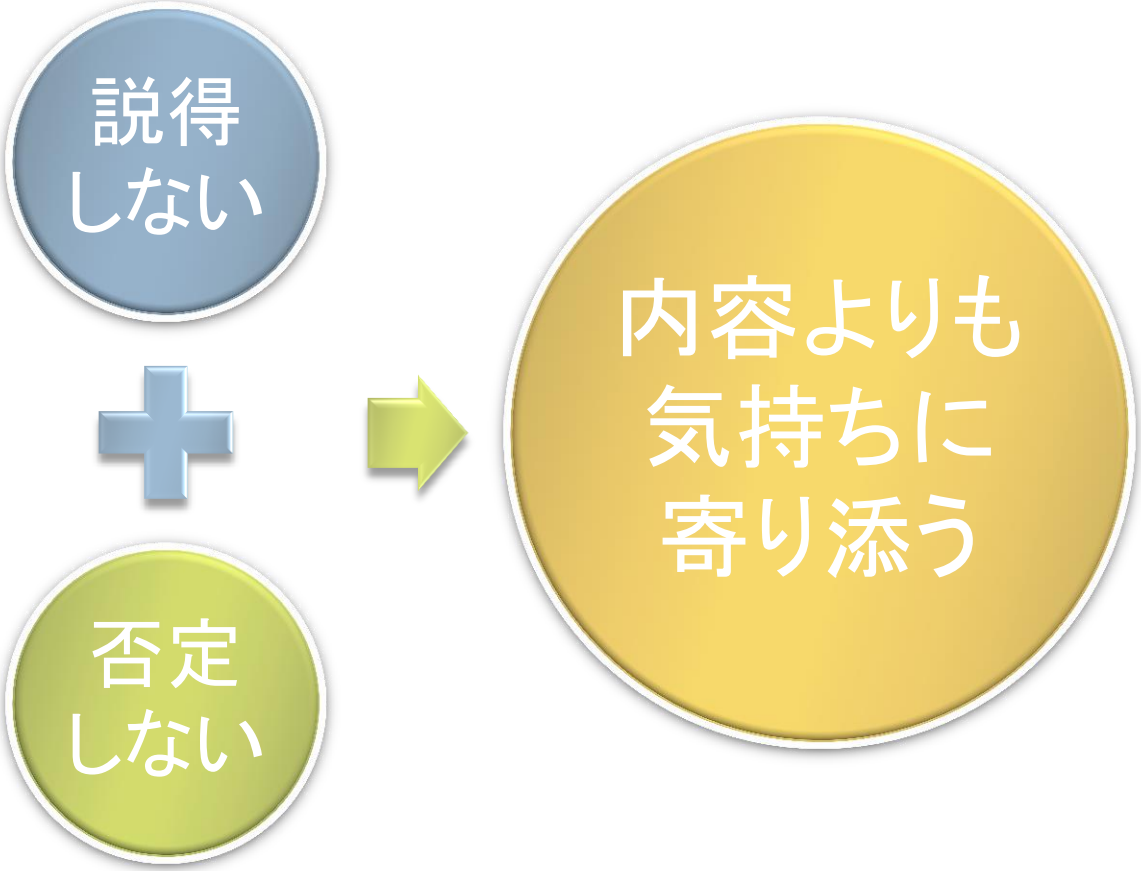
- イライラと落ち着かなさ
- 激しく興奮する
- 何かを“させられている”という感覚

＊「自分のことが周囲の人に筒抜けになり、常に人から見張られている」

＊「自分は誰かに操られている」

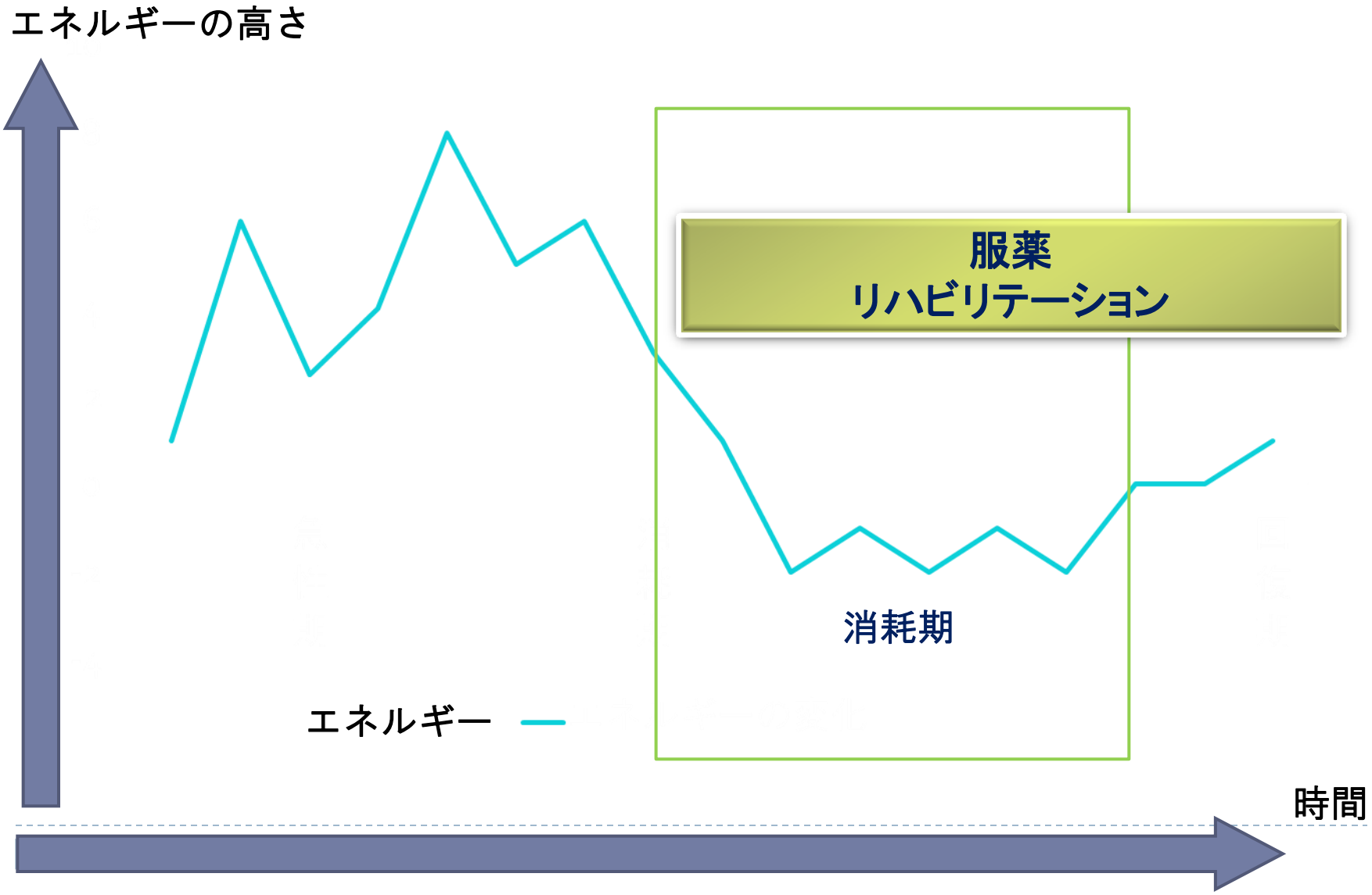
＊「みんなが自分の悪口を言う。非難中傷されている」などの幻聴と妄想は、統合失調症の代表的な症状としてあげられます。

急性期の対応



安心感を抱けるような対応

３つのステージ～消耗期～



消耗期の症状（陰性症状）

陰性症状

【生活意欲の減退が顕著】

- 根気や集中力が湧かない
- 意欲が湧かない
- 元気そうに見えるのに、なぜか仕事や家事が億劫

例えば

- 自閉傾向が強くなり、自室からほとんど出なくなる、社会や他者との交流が少なくなってしまうような、引きこもりの状態
- 喜怒哀楽がはっきりしない、自分の感情に無関心になる。(感情鈍麻)

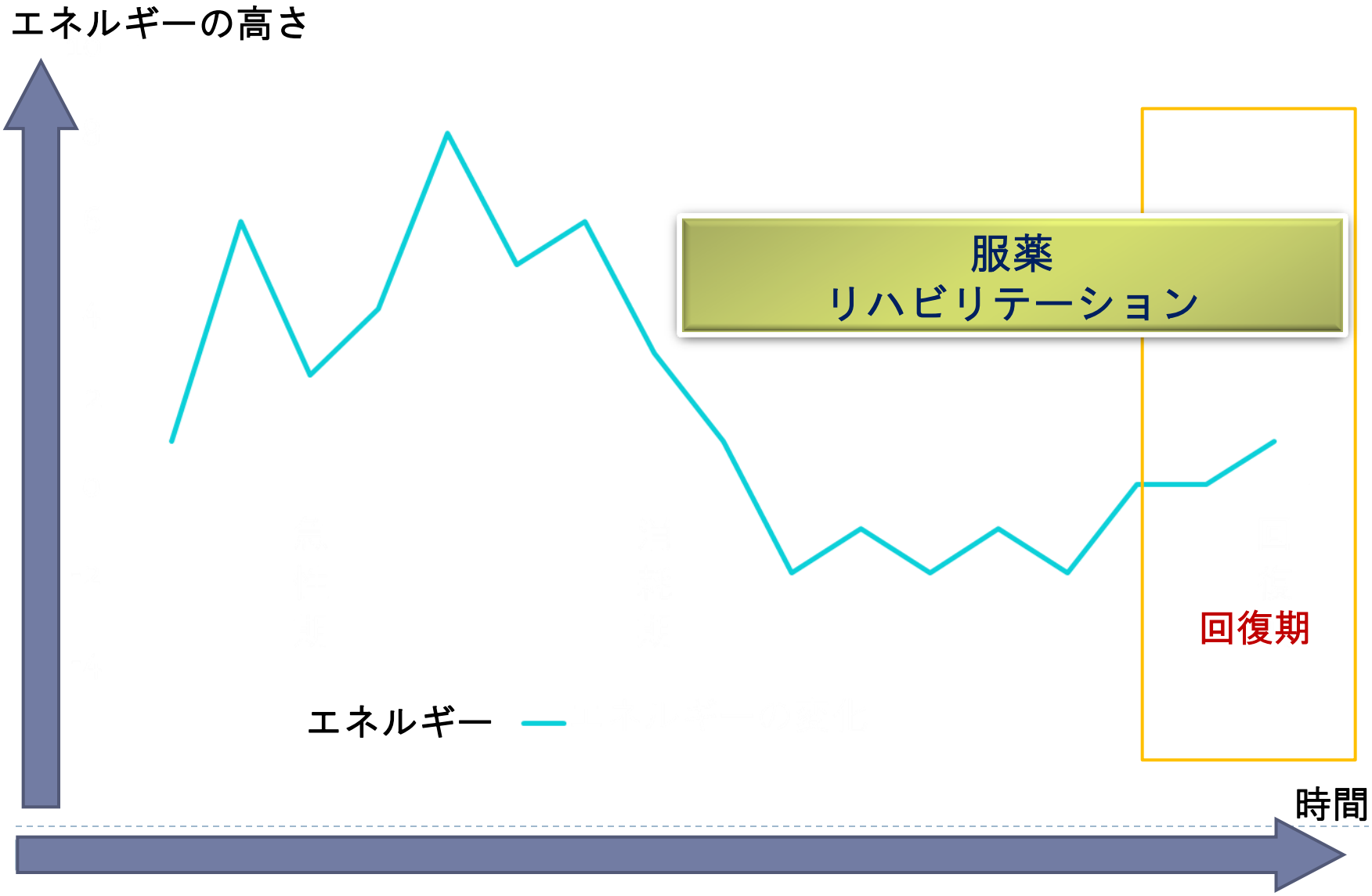
消耗期に気をつけたい言葉

- いつまでダラダラしているんだ
- ちょっとは手伝ったらどう?
- こんなこともできないの?
- いい?大丈夫?本当に出来る?
- 心配でみていられない
- 情けない・・・
- あなたは何もしなくていいわよ

社会復帰

回復期以降について

３つのステージ～回復期～



少しずつ、好きなことから

電話に応じる
ドラマや映画を楽しむ
本や新聞を読む

家の外に出る
自ら電話をかける

散歩や外出を楽しむ
会話の相手が増える

社会復帰・・・!?

- 皆さんの考える社会復帰について･･･
  どのようなイメージがありますか

学校へ
行くこと!?

家事ができ
ること!?

仕事に
就くこと!?

親元を
離れるこ
と!?

社会復帰とは・・・!?

- 辞書をひいてみました

しゃかい - ふっき【社会復帰】

［名］病気や事故で正常な社会活動ができなくなっていた人が、回復して再び社会で活動するようになること。

・・・わかるような、わからないような

社会復帰のカタチは人それぞれ

自分らしい生き方

自分がどうなりたいか

→自分の社会復帰イメージを持っておくことは
目標を持つという意味でも大切です。
また、イメージしたものを周囲のサポーターと
共有できていることも大切です。
（家族、医師、デイケアスタッフなど）

社会復帰を共に考えられるサーポーター

統合失調症の方の社会復帰

社会復帰を目指すにあたって

再発の可能性

認知機能障害

再発予防

通院・服薬の継続

- 予防の為には、通院・服薬を続けられることをおすすめいたします。

自分の病気の傾向を知る

- 自分の症状がどのような時に出やすいのかを知ることができれば、予防策をとることができます。

良い状態を保つ方法を知る

- 良い状態はどのような状態か。それを保つにはどのように過ごせば良いのかを知っていく。

統合失調症の認知機能障害

力の低下

- 集中力
- 記憶力
- 整理能力
- 計画能力

⇒これらが著しく低下する

具体的には

- 本や文字を読めなくなる
- 映画や物語のストーリーが途中でわからなくなる
- 指示通りの作業ができなくなる

言語、動作、運動などのあらゆる面において、正確な把握が困難になるような症状は、日常生活はもちろんのこと、社会生活にも大きな支障をきたします。

再発予防と認知機能障害

自身回復の要素⇒本人の“強み”

- ご本人が元々持っているもの

⇒性格・性質

- 自然にできていること

⇒才能

- 本人が望んでいること

⇒関心・希望・願望

- 環境として持っているもの

⇒資産・人間関係・地域の資源

社会復帰の準備性を高める

バランス良く
考えることが
できると良い
と考えます。

自信を持てるような
経験、振り返り

再発の予防策

認知機能障害との
付き合い方

社会復帰
へ踏み出す
原動力になる

一歩踏み出そうとしたら

“次” への一歩

- 症状が安定してくると、“その先”を考えることも出てくるのではないかと思います。そして“その先”は、人それぞれのカタチがありますが・・・

どのようにしていけばよいのか

相談ができる場所は

何か受けることができる支援は

次への一歩に利用できる事業所

- 精神科デイケア

生活リズム・人間関係の持ち方

- 地域作業所

働く場の提供、訓練

＊就労継続支援事業所
＊就労移行支援事業所
＊地域活動支援センター

- 障害者支援施設

入所型／自立した生活の援助

＊グループホーム･ケアホーム

周囲のサポーターを上手く活用する

医師

臨床心理士

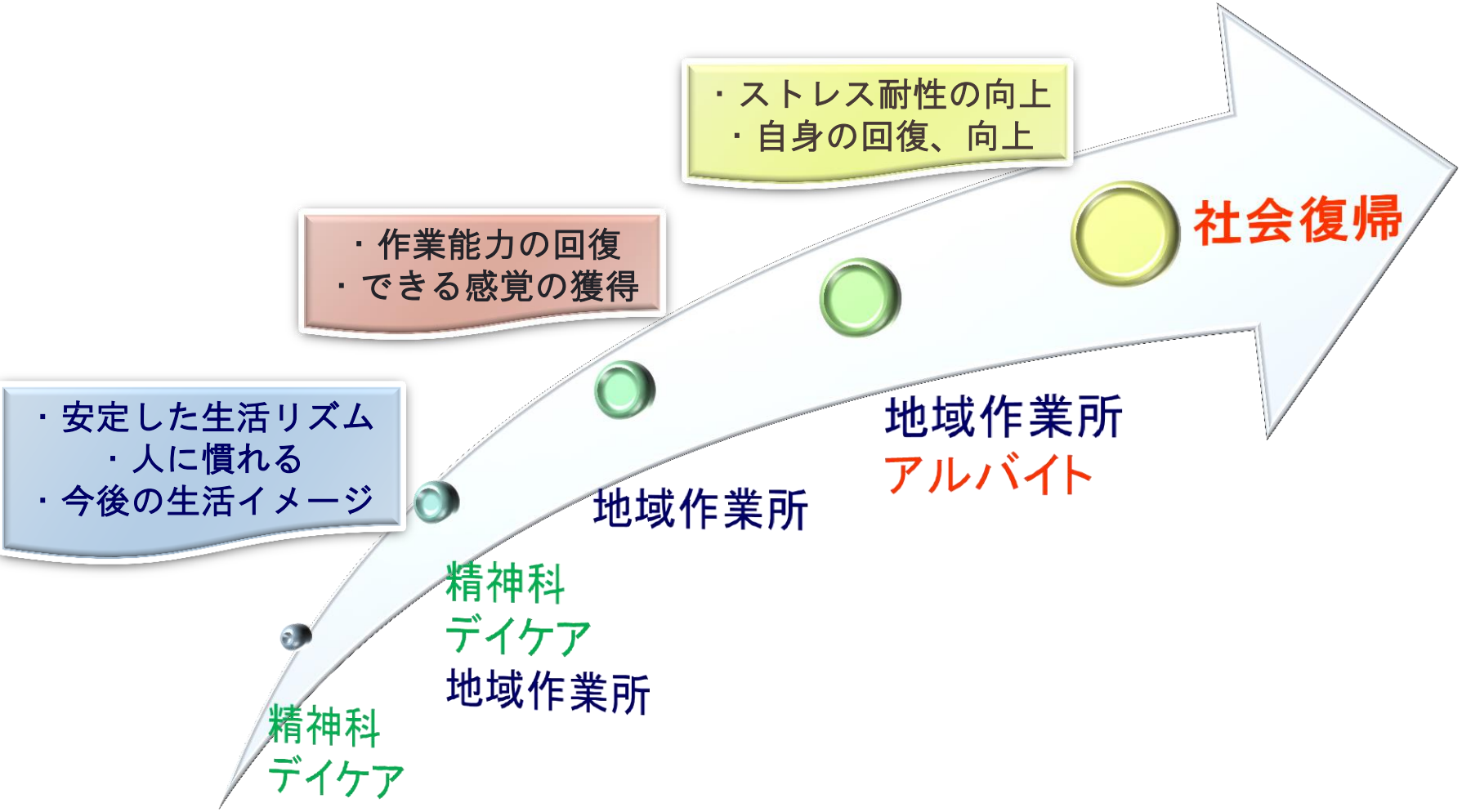
デイケアスタッフ
（各事業所の専門家）

看護師

精神保健福祉士

事業所や制度の利用・申請目的の確認

社会復帰の一例


・ストレス耐性の向上
・自身の回復、向上
・作業能力の回復
・できる感覚の獲得
・安定した生活リズム
・人に慣れる
・今後の生活イメージ
社会復帰
地域作業所
アルバイト
地域作業所
精神科
デイケア
地域作業所
精神科
デイケア

ご家族自身も自分のケアを心掛ける

ご本人をご家族だけで抱え込まない

主治医や各機関の専門家へ相談する

家族会などの利用

“Can” と “Can’t”

ここまでなら “できる” という関わりはお互いのため!?

まとめ

まとめ

ひとりひとりのカタチがある

ご本人と周囲のイメージに
ズレがないように

社会復帰

認知機能障害との付き合い方

再発予防

まとめ

ご清聴ありがとうございました

- 次回の家族教室は、９月７日(日)です。

１６時～　家族同士の話し合い
１７時～　統合失調症と家族
　　講師：ハートクリニック医師

どうぞ宜しくお願い致します。